

第5回 情報推進常任委員会会議録

令和3年11月29日(月)
委員会 議室

○会議日程

- 1 開会宣告(15時50分)
- 2 協議事項
 - (1) 本年度の意見交換会の実施について
 - (2) こども議会について
- 3 閉会宣告(16時10分)

○出席委員(6名)

委員長	7番	西澤	裕之
副委員長	5番	無量谷	隆
委員	1番	高橋	秀明
委員	2番	佐藤	忠志
委員	3番	斎賀	弘孝
委員	8番	高橋	秀之

○欠席委員(1名)

委員	4番	植村	敦
----	----	----	---

○議会事務局出席者

事務局 長	早坂	敦
主 事	満保	希来

西澤委員長

時間になりましたので、ただいまより、令和3年第5回情報推進常任委員会を開会いたします。

出席委員は6名です。なので、定足数に達しておりますので、行います。

協議事項としましては、本年度の意見交換会の実施についてとこども議会についてとなっております。

まず、本年度の意見交換会の実施についてなんですけれども、まず、前回までのお話としましては農協の女性部の方、そして商工会の女性部の方を、合同で意見交換会を行いたいという旨で、一度農協さんのほうと商工会さんの方には話をしておまして、OKの了解も得ているんですが、このコロナ禍の中でずっと延期をしていたということになっております。

皆さんのご意見を聞きますけれども、私の意見としましては、もう殊更この年度末に向けて、これから予算の話になっていく段階で、これから意見交換会をしても、なかなかその反映させる場所がないので、そうであれば、来年度、令和4年度の実施に向けて、ちょっと話をしていきたいなというふうに私としては思っているんですが、皆さんのこの意見交換会についての、実施についての意見があればお願いいたします。

斎賀委員

私も今回っていうか、これからもう冬に向かっていくんで、何か冬道にこう出てきて、悪路の中、来てもらうのも気の毒だし、年末年始で忙しいのはわかってる中で、更にまたこう行事を一つ作って、いろいろ家の中の仕事、外の仕事をやりながら来てもらうのか、大変心苦しいので、新年度に改めて、お願いしてやっていただけるかどうか。その前に今回そういう状況出来ないの、新年度でもよろしいですかということ断って、進めたほうがいいんじゃないかと思えます。

西澤委員長

ありがとうございます。

今、斎賀委員からもそういうこととお話があったんですけども、これ来年度の実施で、意見交換会はよろしいでしょうか、皆さん。

(「はい」の声あり)

では、来年度実施ということで、今年度の農協さんと商工会さんのほうには、事情を説明をして、お詫びをして、来年度実施ということ。その時にですね、今年度出来ません、すいませんっていうのでいいんですけど、来年度も対象を農協と商工会の女性部にしたまま、ずっとでいいのかなのかっていうところはどうですかね。このまるっきり違うところの対象と話し合うとかっていう可能性もあるのか。いやそれは農協さんと商工会さんの女性部と意見交換会をしようっていうことでもいいのか。その辺りどうですかね。委員の方々。

高橋秀明委員

最初からJAの女性部、商工会の女性部に話を持っていったらもんね。

(西澤委員長「はい」)

範囲を広げないで、その中でやったほうがいいんじゃないかと私は思いますけどね。

西澤委員長

わかりました。その他のご意見の方ある方いませんか。

(一同無言)

では、実施に向けては意見交換会をする、については両女性部として、今後も考えていくというところは、外さないでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

続きまして(2)のこども議会についてを議題にしたいと思います。

今年度のこども議会、佐藤委員と高橋秀明委員は、初めてだったかと思うんですけども、2年ぶりだったので、最初ちょっとごたつきましたけども、こども議会の内容としては、例年あんな感じで実施をして、今回5回目ということになっております。

反省も含めて、こども議会についてのご意見があれば、皆さんの委員の意見を聞きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

斎賀委員

最初の事前に幌延中学校さんの方から質問出てきたときに、このデータの出所はどこだっというのを書いた方がいいんじゃないですか。ほとんど皆書いてくれたんですけど、やっぱり中には、データの出所がわからないまま質問に入ってるというところがあったんで、それが気になった。どうしてだろうまでは行かないですけども、そういうのがあったのが気になったのと。

それから中学生が質問する。それで、こちら側で考えますよね。中学生は名産品のことを聞いているのに、その名産品を置き換えて、特産品、特産品って言ってるんだよね。食べ物のことの名産品のことを子どもが聞いて、稚内とかあっちのほうにあるのと幌延には名産品が無い、何とかならんのかっていう質問してたのに、こっちは特産品については何だか有るって言うから、名産品と特産品では違うと思うんだよね。わからないけども違うと思うんだ。子ども等が考えた名産品の質問に対して。だから、そこら辺もうちょっと確認して欲しかったなと思いました。

西澤委員長

中学校のほうでも、反省会等は。もうおこなったんだよね。

(早坂事務局長「今やってる最中」)

ですので、その辺の意見がもし出てくれば、またそこは皆さんにもお知らせしますね。中学校側の反省も、この情報推進では取り上げるので、もちろんその辺も聞いてみたいと思います。

他にご意見のある方いらっしゃいますか。

今回5回目なんですけど、今後の在り方も含めて、何かご意見があれば併せてお願いいたします。

斎賀委員

これはいつも言ってるんですけど、この議会とは何をするとこですかって子どもたちに説明するときに、毎回「議会は役場のやることが良いことが悪いことか」っていうところで、今回もまた「良いことが悪いことか決める」っていうふうに、「良いことか悪いことか」っていう言葉を止めたほうがいいんじゃないかと前も言ったんですけど。

西澤委員長

そうでしたか。すいません。良いか悪いかではないと。1回目の説明の時の話ですよ。

(斎賀委員「うん」)

はい、わかりました。

佐藤委員

高橋秀明委員と初めて出してもらって、委員長としてこれ生徒方の毎回、その生徒によって違うだろうけど、学校の公表だとかやってみた、あれってどういう状況なもんだい。

西澤委員長

毎回ですね、今反省会の途中かなという事務局長の話があったんですけども、それを子どもたちのやった反省とか、いろんな意見とかっていうのも、もう1回議会のほうで頂いて、それを皆さんに見ていただくっていう機会は設けているので、今後そのような形で、今回の子どもたちの意見とか出てくると思うんですけども、前回までの感じだと、あれですか。こども議会をやってみてどうだったかっていう、感触。

佐藤委員

例えば、負担になってるのかさ、学校としてね。こちらのほうで要請したわけでしょ。僕もよくわかんなかったんですけど、議会のほうでこども議会をやったらどうだということでも要請して、学校も受けてきたんだろうけど。

ただ今言ったように、近年あちこちの学校でもこども議会だとか、高校生を対象にしたとかやってるんでね。ただ、学校からやってくれて言ってるんなら何も問題ないんだ。こちらからも要請した中で、あまり負担になってるのかな、どうなのかなと思ったり、その授業だとか、もろもろにね。我々としては当然、その議会を理解してもらって、こういうことを議会で、町長から関係機関の担当者並べてやってるんだなど。喧々諤々やってるんだなっていうのは、大したこれはいいことだと思うんだけど。その辺ちょっと聞きたかったんですけど。

西澤委員長

当初、佐藤委員おっしゃるように、こちら側からの働きかけでやっています。それは今も変わってなくて、なので主体は議会が主体としてやっています。

もちろん、町部局や教育委員会にもこういうことでやりますってお話をさせていただいてますけども、やっぱり学校。佐藤委員おっしゃるように、学校がどう考えてるかっていうところなんで、1番大きいのは。校長先生によったり、担当によったりしますが、今まではずっと良いことだっていうか、その子どもたちの教育に関しても、良い機会を与えていただいているっていうようなお話はいただいているので。学校側としてもこれをですね、最初は2年生を対象にしていたんですが、コロナ禍で出来なかったのが3年生やっていますが、1年生のときから、その地域を学ぶということで、学年を追って最終的に3年生で議会で質問するというような流れが今後出来てきているので、学校側としても、総合学習の中でやっているので、負担になっているということはないというふうに理解はしていますし、学校の先生方からも好評をいただいているというふうに理解はしています。

ただ、今回は問寒別を丸っきり齋賀委員に任せっきりにしてしまったので、そこを私としてはちょっと反省をしているところですが。本来であれば今回、高橋秀明委員と佐藤委員にも文書は配布したかと思うんですが、本来はみんなで行って中学校で質問づくりとか、そういうようなことをやっているんですね。今回はコロナ禍の中でやるので、議員の方の人数も制限してやりましたが、本来は皆で行ってっていうのが議会とこども議会、中学校との関わりです。

(佐藤委員「わかりました」)

無量谷委員

私の感じたことは、最初から携わってきたんですけれども、やはり変化してるのは、一人一人がパソコンを駆使して授業をこなしてると。更に今年は、生徒によっては英語でぱっと出てるような状況で、タブレットを活かしてるっていうような状況であります。それがかなり進化したのかなっていう感じは、授業に取り入れられた、学校教育でないかなって感じしています。

そういう中で、大変便利なことはなって、情報が収集しやすくなってきてるんですけど、事例として、どこそこの市だとか、すごい大きな市の事例を、ちょっと目立ったかなと。だから、それが若干幌延に合うか合わないかは、今後検討もあるんですけど、これはちょっと幌延町に合わない、ちょっとスケールが大きい話だっていう部分も若干あったんですけども、そういう部分で、データのある程度幌延に合うような形があってくれば、また幌延に愛着心湧いてくるのかなあという感じはしたんですけど。その辺、若干なりと感じています。

幌延のことについて、なるべく合うような形で質問してほしいなあって感じしました。

西澤委員長

ありがとうございます。ほか、どうでしょうか。

佐藤委員

議員さんしかいないんだから、ある程度ずれたような話をするけど、ああいう中で例えば、町長だとか、議長だとか、最後の中で、幌延町はこういう業種もあるんだよと。例えば、皆さん学校出て、こういう奨学制度がありますと。何とか各病院もあるし。役所もあるしあちこちあるんだし、なるべく地元でこういう制度を利用して帰ってどうだとかってそういう話もならんもんかなと思って。やはり奨学資金っていいものもあるし。あれもね、今貸付けだけど、あんなものほとんど給付して、帰って来るんだったら、タダでくれてもいいような制度もあちこちで考えてるみたいだけど、そういうのもあるし、何とか地元で町職員でも、役場に来てくれればありがたいんだし。その宣伝もどうなのかなと思って俺聞いてたんだけどさ。

これから高校大学行って、あちこち行くんだろからね、こんだけ役所の就職先もあるわけだし、そんな宣伝もどうなのかと、余談だけどね。どうなのかなと思って聞いておったんだけど。ただ、あのまま終わるんじゃなくてさ、課長か町長か副町長でもいいから、皆さん、ぜひ幌延町にもなるべく就職して、こういう制度もありますよとか、親はわかってるけど、子ども達はわかんないでいるかもしれんし。そんなのちょっと余談だけど、どうなのかなと聞いてたんだけどさ。

西澤委員長

ありがとうございます。高橋秀明委員はご感想かなんかは。

高橋秀明委員

校長のね、生徒たちを褒めるコメントっていうか挨拶、最後ありましたよね。あれが1番表してるんじゃないかなと。やっぱり堂々と発言してくれたとか、誠意を持ってやってるとか。あれに尽きるんじゃないかと思うんですよね。そういう感想です。

西澤委員長

ありがとうございます。では最後、議長。

高橋秀之委員

新型コロナウイルスの影響あって、1年ぶりっていうか、やったには、うまくまとまったのかなあと。さっき、委員長も言ったとおり、最初はちょっとおどおどっていうか、ちょっとまとまりがなかったんですけど。

それと問題作りの方を中学校行ってやらしてもらったんだけど、今、無量谷委員が言ったとおり、あまりにもアンケートっていうか、それに寄り過ぎてるっていうか、幌延と合わない町の事例を、それを何かメインっていうか、それを利用して質問してるのは多いかなって感じたんで、もうちょっと自分の町のことを考えてもらって質問してくれば、まだ良い質問になったのかなと。

それとただ、もう一つは、教えに行ったときに、グループ制で4つだかに分かれて、その問題、問題、要するにやってたんで、ちょっと問題が固まってしまったのかなっていうのがあって、昔は結構皆ばらばらで考えてやって、何ぼか重なるっていうのあったんで。その辺もうちょっと幅広く、ばらばらっていうか、ならないのかなって自分の意見をもうちょっとこう、主張したほうがいいんじゃないかなと思うんです。あんまりそういうふうに分けられないで。それが必要じゃなかったかなと思うんです。

だけど、いいことも議会でなかったかなと。子ども達のまだ感想を聞いてないけど、そっちこち出てった時にやっと、こういうことがあった、こういうことは楽しかったって思えるようなものだったらいいなと思ってます。

西澤委員長

ありがとうございます。

こども議会についてよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

それでは来年度に向けて、あとは、子どもたちの感想が届きましたらまた、情報推進常任委員会で取り上げたいと思います。ありがとうございます。

それではこれもちまして、第5回情報推進常任委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

(16時10分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 西澤裕之

以上、記録する。

主事 満保希来